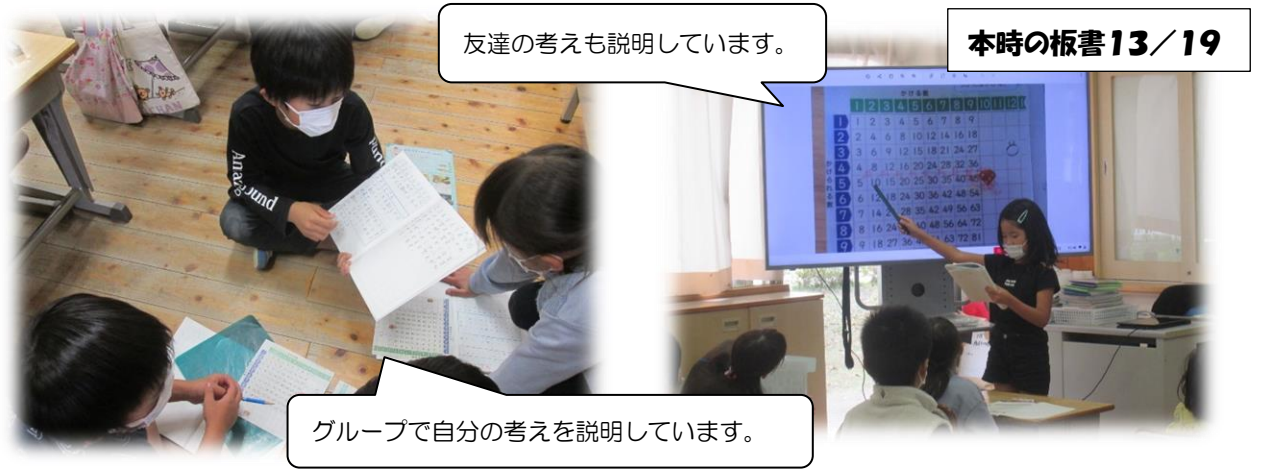
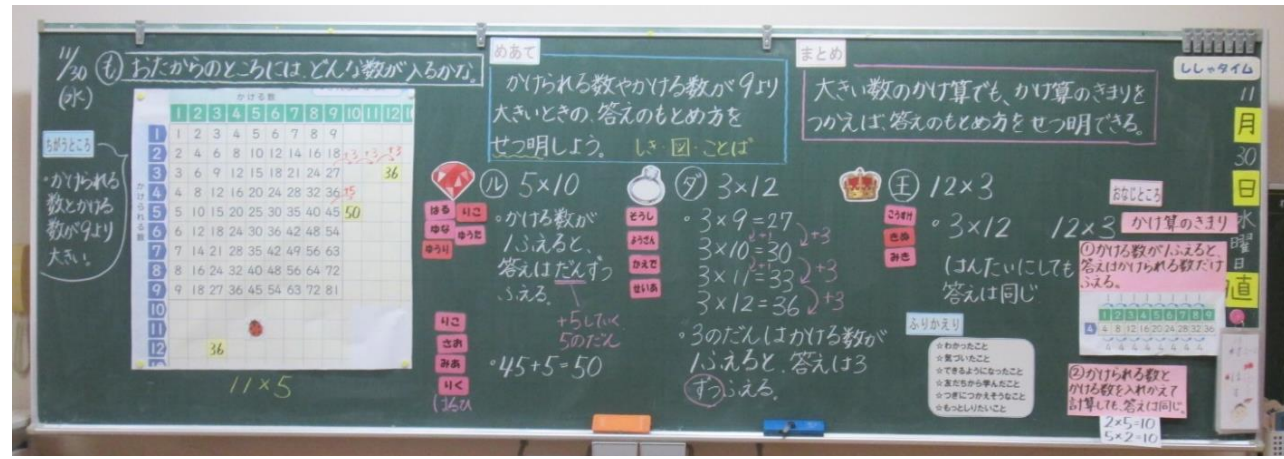


11月30日(水)は、矢野先生による算数科の研究授業でした。本単元では、6~9の段の九九の構成、九九表を拡張し、乗法の性質やきまりを用いて簡単な2位数と1位数の乗法の計算の仕方を考える「かけ算」の学習でした。本時は、13/19時間目です。乗法のきまりを用いて簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を説明する学習をしました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「九九をつくろう(かけ算(2))」全19時間(東京書籍) 2年2組 矢野 真衣 先生
本時の目標：乗法の性質やきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を考え、説明することができる。
本時における見方・考え方：数量の関係に着目し、既習の乗法に関する性質やきまりと関係付けて計算の仕方を説明することができる。



友達の考えも説明しています。

本時の板書13/19

グループで自分の考えを説明しています。

矢野先生による授業のリフレクション

授業で何のために対話の場面を設定するか、子どもに何を話させたいのか、ノートにはどんな考えを書かせたいのかを、教師側が明確にもっておかないといけないと分かりました。また、子どもに一番考えさせたいところに時間をとれるような時間配分をしないと、その授業の中で適切な評価ができないので、日々の授業の中で時間を意識して実践していきたいと思いました。そして、どの児童の考えを取り上げるのか、視点を絞って見取らないといけないと、日々感じるので、対話の設定・見取り・児童の取り上げ方を今後意識して授業を行っていききたいと思います。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 自分の考えを友達と見せ合いながら学習ができていた。
 - ▼3つのグループの対話では、人数が多く、説明し合う時間が少なかった。「説明することができる」が目標なので全員に説明させたい。
 - 対話させる人数を考える。
 - 簡単な 5×10 の説明を初めに全体で確認して、 3×12 、 12×3 の計算の仕方の説明に時間をとってよかったのではないかと。(ペアで)
 - ▼ペアやグループ活動での対話は、目的や意図をもって行い、対話中での学びや気づきを大切にしたい。
 - ▼「説明させる」ことについてどのような姿を目指すのか、ゴールの児童の姿を考えておきたい。
 - ・それぞれの学年で「説明する力」を付け、積み上げていきたい。
 - ▼自分の計算の仕方だけでなく、他の人の考えを書く時間があるとよかった。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - 九九表の中の答えを求める箇所にお宝(ルビー、ダイヤ、王冠)があるという問題提示の工夫が、意欲的に取り組める仕掛けとなっていてよかった。
 - ▼九九表を提示し、多面的・多角的に考えられる課題であったが、局所的な扱いになってしまった。
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - かける数やかけられる数の算数用語、かけ算のきまりなどを使った発言が見られ、既習の学習が身に付き、日々の学習の積み上げが感じられる。
 - ▼図を活用している児童を取り上げてよかった。
 - ▼九九表の中の答えにポイントをおいて求めるのではなく、表を広げていくことできまりを見つけることができたのではないかと。
 - ▼九九表を使って説明することが大事ではなかったか。

矢野先生の授業では、子どもが解きたいと思うような教材教具や問題に工夫があり、大事な言葉を子どもから引き出す発問や切り返しがたくさん見られました。4月からの初任者研修や日々の授業の改善を進め、授業力を高めていると感じられる授業でした。

対話の目的や対話のさせ方について、研究協議の課題にあがることが多いですが、日々の授業実践の中で改善しながら、全体でも共有していきましょう！

授業改善プランの3つの取組である
①課題設定 ②対話 ③振り返りやまとめ
のうち、特に②と③についての改善を目指していきましょう！

